72 期 進路だより

大阪府立富田林高等学校
72 期生 3 年第 5 号
2019 年 9 月 18 日

センター試験説明会も終わり、本格的な入試シーズンの到来です。皆さんの中には推薦入試などで既に調査書発行願を進路指導室で受け取った人もいるかと思います。調査書の発行手続きについては各 HR 教室にその方法を掲示していますが、改めて皆さんにお知らせしますので参考にしてください。

調査書発行手続きについて

⑴ 国公立大学／推薦入試の場合

① 各自で**出願書類(願書)**を取り寄せる。一般入試用とは異なるので注意すること。

② **進路指導室**で**「出願希望者名簿」に必要事項を記入**し、以下の書類を受け取る。
A-学校推薦人数枠がある場合：**「国公立公募推薦申込用紙」「国公立公募推薦申請書」**
B-学校推薦人数枠がない場合：**「国公立公募推薦申込用紙」**
受け取った書類は必要事項を記入し、指定された日までに担任に提出する。

③ **A**-校内選考を行い受験者を決定する。(出願日の約 1 か月前頃)
B-条件を満たしているか確認を行う。

④ **A**の受験決定者と、**B**の条件を満たしている人には**「推薦決定通知書」**が渡される。

⑤ 国公立大推薦入試受験者集会で**「誓約書」「推薦入試調査書発行願」**が渡されるので、必要事項を記入・押印し、募集要綱に添付されている**「推薦書」**と一緒に担任に提出する。
※「推薦書」については下記「推薦書が必要な場合について」も参照のこと。

⑥ 受験票が送付されてきたら受験番号を進路指導室まで報告する。

【注意】国公立大学の公募推薦は専願であり、合格したら必ず入学する必要があります。
何らかの事情で辞退が必要な場合は手続きが必要です。

⑵ 私立大学の場合

【注意】**「調査書発行願」**は、**一般入試**の場合は**担任**から、**推薦・AO入試**の場合は**進路指導室**で、それぞれ受け取ること。

⑵-1 私立大学／推薦・AO 入試の場合

① **進路指導室**で推薦入試の場合は**「公募推薦出願者名簿(専願・併願別)」**、AO 入試の場合は**「AO出願者名簿」に必要事項を記入**し、**「推薦入試用調査書発行願」**と、専願の場合は**「誓約書」**も受け取る。

② 必要事項を記入し出願開始日の２週間前までに担任に提出する。その際、推薦入試の場合は募集要項等に添付されている**「推薦書」**と、さらに専願の場合は**「誓約書」**も一緒に担任に提出すること。※「推薦書」については下記「推薦書が必要な場合について」も参照のこと。

【注意】面接・小論文がある場合は①で**「受験報告書」**も受け取り、入試後に記入して進路指導室まで提出してください。

⑵-2　私立大学／一般入試の場合

「調査書発行願」を**担任**からもらい、必要事項を記入して出願開始日の 2 週間前まで担任に提出する。

推薦書が必要な場合について

推薦入試の場合は原則として学校が作成する（＝担任が書く）推薦書が必要です。推薦書が必要かどうかは必ず各自で募集要項を読んで確認してください。

この学校が作成する推薦書は、上記⑴⑵にある通り「調査書発行願」や「誓約書」と一緒に提出してもらう必要がありますが、推薦入試の受験者が多いと担任の対応に時間がかかる場合があります（推薦書を書くのに時間を要するため）。したがって、推薦書があることが分かったら、早めに推薦書を担任まで渡してもらえるとその後の対応がスムーズになります。皆さんの協力をよろしくお願いします。

. 平均学習時間は 7 月が 4.9 時間、8 月は 6.5 時間でした。また毎日継続して学習した人は 7 月で 154 人、8 月で 164 人でした。受験勉強に目新しいアドバイスはありません。日々の勉強をいかに続けるか、またいかに自分で自分を鼓舞し、モチベーションを保てるかにかかっていると思います。孤独で不安な時もあるかもしれませんが、頑張る 72 期生の皆さんを応援しています。

現代文で小林秀雄の「無常ということ」を扱いましたので、小林秀雄の言葉を少し紹介したいと思います。

僕はただもう非常に辛く不安であった。だがその不安からは得をしたと思っている。学生時代の生活が今日の生活にどんなに深く影響しているかは、今日になってはじめて思い当る処である。現代の学生は不安に苦しんでいるとよく言われるが、僕は自分が極めて不安だったせいか、現代の学生諸君を別にどうという風にも考えない。不安なら不安で、不安から得をする算段をしたらいいではないか。学生時代から安心を得ようなどと虫がよすぎるのである。（「僕の大学時代」）

僕は不幸にして抜群の資質などというものを持って生まれなかったから、学ばずして得るという天才的快楽を嘗て経験した覚えはない。だから何でも学んで得べしという主義である。自惚れだって手をつかねて生ずるものではない、自惚れだって学んで得るのだ。絶望するのにも才能を要し、その才能も学んで得なくてはならぬとさえ考えている。（「文科の学生諸君へ」）

文学志願者への忠告文を求められて菊池寛氏がこう書いていた。これから小説でも書こうとする人々は、少くとも一外国語を修得せよ、と。当時、私はこれを読んで、実に簡明的確な忠告だと感心したのを今でも忘れずにいる。こういう言葉をほんとうの助言というのだ。心掛け次第で明日からも実行が出来、実行した以上必ず実益がある、そういう言葉を、ほんとうの助言というのである。

諸君がどれほど沢山な自ら実行したことのない助言を既に知っているかを反省し給え。聞くだけ読むだけで実行しないから、諸君は既に平凡な助言には飽き飽きしているのではないか。だからこそ何か新しい気の利いたやつが聞き度くてたまらないのじゃないか。（「作家志願者への助言」）